

平成29年度後期学校評価・学校振り返りアンケート の分析結果について

<http://www.edu.city.kyoto.jp/hp/matsuo-s/>

平成 30 年 3 月 20 日

京都市立松尾小学校

校 長 松井 靖至

先日は、平成 29 年度後期学校評価に御協力いただきありがとうございました。同時期に、子ども達には、学校振り返りアンケートを実施いたしました。その結果の主たるものについて、報告させていただきます。また結果の詳細については、松尾小学校のホームページ右側にある『学校評価』にアップしています。お時間があるときにご覧ください。

○学校評価と学校振り返りアンケートの結果からみる主な特徴

全体を通して、前期よりもほとんどの項目で「出来ている」割合が増えていました。また、振り返りアンケートの結果から、低学年は前期よりも後期の方が「出来ている」割合が上がり、高学年は後期の方が「出来ている」割合が少し下がるという傾向がありました。

また、前期同様、学校評価全体を通して良かったものは、下記の今年度から新たに追加した項目で、それぞれ前期よりもさらに良い結果をいただきました。

⑫学校は、松尾小学校の子どもに豊かな体験をさせるため、地域と協力した取組を行っている。

⑮学校は、学年・学校便りやホームページ等で、学校の教育方針・学校の様子を伝えることができている。

【「よく出来ている」
「大体出来ている」の割合】

	前期	後期
⑫	93.8%	→ 94.9% (+1.1%)
⑮	96.3%	→ 96.5% (+0.2%)

今後も、地域と家庭と学校が連携しながら子ども達を見守り、その豊かな体験や学習の様子を、より分かりやすく伝えていければと思います。

また、今年度新たに追加した項目として、他に下記の⑤がありました。

⑤我が子は、自分に自信をもって行動することができている。(保護者)

⑤得意なことやがんばっていることはありますか。(児童) ……前期

その「児童振り返りアンケート」の項目を、後期は

⑤自信をもってがんばったり、苦手なことにも挑戦したりしていますか。(児童) ……後期

のように、より自己肯定感・自己有用感について考えられるような項目にしました。すると、

【「よく出来ている」
「大体出来ている」の割合】

という結果になりました。

	前期	後期
保護者	68.0%	→ 70.4% (+2.4%)
低学年	95.8%	→ 91.2% (-4.6%)
高学年	95.3%	→ 84.1% (-11.2%)

やはり、自信をもって何かに取り組んだり、苦手なことや難しいことにも、諦めずにがんばるということは、子ども達にとってとても大変なことなのだと分ります。特に、「出来ている」と回答

した割合が、低学年よりも高学年の方が下がっているのは、高学年になればなるほど、失敗をする経験が増えたり、できない自分を改めて見つめる機会が多くなったりすることが要因であると考えられます。しかし、そういう失敗する経験と成功体験を繰り返すことで、子ども達は成長をしています。そう考えてみると、今回の結果は、成長過程だと考えることもできます。

○自由記述より

保護者「平成29年度の学校生活を振り返って、子どもたちにとって
良かったと思われることは何ですか。」
児童「今年、『やってみて良かったなあ。』、『がんばったなあ。』と
思ったことはどんなことですか。」

*意見の多かったもの

<低学年>

【保護者】

- ・地域の方との交流
- ・楽しく学校に通えたこと
- ・他学年との交流
- ・友達との関わり

【児童】

- ・勉強
- ・運動
- ・地域等の行事
- ・地域の方と行う学習



低学年では、保護者・児童ともに「地域」との関わりがとても良かったというご意見が多く、1年生の「昔の遊び」学習や2年生の「いもほり」や「スイートポテトづくり」、3年生の「畑の学校」や「昔の道具」学習など、様々な学習で地域の方と連携して行えたことがあげられていました。また、PTAバザーや少年補導主催の「クリーン作戦」、おやじの会の「流しソーメン」や「チョコレートづくり」など、休日に行われているものも、子ども達にとって良い経験になっているというご意見をいただきました。

他には、保護者のご意見の中で、「6年生とたてわりで接する機会があるのはいいことだと思います。」「6くみのお友達と仲良くなれ、その人の優しさやがんばる姿に自然とひかれて好きになり一緒に遊びたいなと思うようになったことが良かったです。」など、他学年や6くみ児童との交流が良かったというご意見も多くいただきました。児童の意見の中では、「勉強」「運動」をがんばった、やって良かったという意見が、1～3年生のどの学年でも多く見られました。

<高学年>

【保護者】

- ・宿泊学習
- ・運動会
- ・友達との関わり
- ・校外学習

【児童】

- ・宿泊学習
- ・勉強
- ・運動会
- ・学習発表会



高学年では、保護者・児童ともに宿泊学習や校外学習、学校行事等についての内容のものが多く、「自分たちで目標を決めやりとげられた達成感や友達の大切さを実感できて、子どもにとって良い経験になりました。」など、集団生活の中で学んだことや達成感、自分自身の成長を感じたことが良かったという意見がありました。

他にも、保護者の方から「家庭科や音楽の授業が楽しいようで、聴いた曲を家でも調べて聴いたり、朝ご飯を自分から進んで作るようになり、心の豊かさが育っているように思います。」や「高学年になり、自分で考え行動することが多くなったのか、少しずつですが、自分が今どうすれば良いのか考え、行動出来るようになったように思います。成長しているのだなとうれしく思います。」など、高学年になったことで得られる児童の成長についてもご意見をいただきました。

今年度は、昨年度の学校評価のご意見を受け、夏休み中の希望制個人懇談会を取り入れたり、2月の授業参観・懇談会を2日に分けて行ったりしましたが、いかがでしたでしょうか。今年度の学校評価の中でも『図工展』の開催時間等、良い取組がさらに良くなるための貴重なご意見もいただきました。来年度、いただいたご意見を活かせるよう、改善していきたいと考えています。

児童の成長、がんばりがよく分かる、心温まるご意見をたくさんいただき、ありがとうございました。

○道徳の学習について

- ①道徳の授業は楽しみですか。
- ②道徳の授業は他の授業より自分の意見を言いやすいですか。
- ③道徳の授業を受けて、同じようにしようと思ったことはありますか。
- ④道徳の授業は将来役に立つと思いますか。

前期同様、道徳の学習について児童にアンケートを取りました。「よく出来ている」「大体出来ている」の割合は、下記のようになりました。

	①	②	③	④
低学年	91.2% ↑	84.4% ↑	94.5% ↑	96.5% ↑
高学年	71.2%	70.3%	89.4% ↑	92.7% ↑

数字の横の矢印は、前期と比べて「出来ている」と回答した割合が上がったものです。低学年については、全ての項目で、前期以上の結果となりました。高学年は、①②の項目で下がったものの、③④で割合が前期よりも上がり、全校児童が道徳の学習を通して、同じように実践しようという気持ちや、将来役に立つという思いを強くもつていることが分かります。

③我が子は、学校でしている道徳や人権教育の授業で、心が耕されている。

また、上記の項目について回答を求めた、保護者の学校評価の結果でも、

	H28後期	H29後期
保護者	84.5%	86.2% ↑

となり、昨年度よりも今年度の方が、道徳や人権教育の授業を通して児童の成長を感じているという結果が出ました。

研究教科を道徳として今年度で6年目となります。この結果は、これまでの取組の成果であると言えるかもしれません。引き続き、今後も子どもたちの豊かな心の成長につながるよう、学習を深めていきたいと思います。

<第三回学校運営協議会 アドバイザー 京都文教大学 永野貴子先生より>

地域・学校と保護者・子ども達の関わりをこの松尾小学校で考えたとき、地域・学校に対する信頼の高さが感じられる。保護者が安心して任せられる地域・学校であることがこれからも大切である。また、頼りにされる、任せられるということも地域・学校にとってはとてもうれしいことである。

子ども達の自由記述を見ていると、低学年だけでなく、高学年でも「勉強」「運動」をがんばって良かったという意見が多くかった。それは、たくさんの失敗をして、それを乗り越え成功した喜びを知っているからである。これは、失敗をしない子どもには得られないもので、松尾の子ども達は「できた」「分かった」という実感をたくさん味わっていることがよく分かる。



来年度以降、新教育課程が実施されるにあたって様々な変化があるが、女の子のかっこいいと思う男の子のタイプも変わってきてている。今は、リーダーシップのある子、まじめでみんなに対して公平な子である。この変化は、学校教育の変化でもある。それぞれの経験や思いを言葉にして表現する学びを行っている現在において、自分の考え方と違う子がいるということを知り、そんなふうだと子ども同士が気付くことができる今の学びが、これからも学びの基盤となる。

もうすぐ6年生の卒業式を迎えるが、『卒業』は6年生だけでなく、1年生も1年生を卒業して2年生に、2年生も2年生を卒業して…と、それぞれの学年で卒業を迎えていく。ここで『卒業』とは何かと改めて考えてみると、『卒業』とは、その人なりに自分のもっている力で「何かを切り拓いていく（解決していく）」、つまり「困難を乗り越える力をつけること」である。そして、周りにいる人はその人に寄り添っていくことが大切である。

今年卒業を迎える6年生も、6年生なりに困難を乗り越える力を身に付けた子ども達であると、そんなことも考えながら門出を見送ってもらえたと思う。

